

## ●シモバシラ(*Keiskea japonica*)とは？

シソ科の多年草で日本固有種。関東以南の本州と九州に分布する。学名は日本初の理学博士である名古屋出身の植物学者 伊藤圭介にちなむ。

冬季には、茎は枯れるものの、根では生命活動が続けられるため、地下から水分が吸い上げられ、茎の導管と通じて上部へ送り続けられる。

この時、気温が低下して氷点下に達すると、導管の内部で水分が凍り、氷の微結晶が生成する。この結晶の成長過程(=水から氷への相変化)においては、液体状態(=水)よりも体積が増大するため導管が破壊され、茎も裂けて外部に向かって氷の結晶が成長していく事になる。これが「氷の華」、つまり「氷柱」の生成機構である。



シモバシラの根元にできた氷柱

●シモバシラの根元にできた氷の華(氷柱)



●シモバシラの根元にできた氷の華(氷柱)



●シモバシラの根元にできた氷の華(氷柱)

